

- ◆ 昨年度、兵庫県洲本市で実施した「地方創生に関する意見交換会」のフォローアップを実施する中で、引き続き、淡路島内の連携を図っていくべきとの声が多く聞かれた。
- ◆ 淡路島には、「日本のはじまりの地」であることを示す文化財が点在(31か所)し、『古事記の冒頭を飾る「国生みの島・淡路」～古代国家を支えた海人(あま)の営み～』として、平成28年度に文化庁から「日本遺産」の認定を受けた。この日本遺産の認定を契機として、洲本市、南あわじ市、淡路市のほか地域住民等の連携や地域活性化への取組を支援することを目的とし、講演会・意見交換会を開催(29年2月27日)。

1. 成果事例の概要等

【課題の把握等】

○昨年度(平成28年2月1日)に、淡路島全体の活性化につなげていく端緒となることを目的として、兵庫県洲本市にて淡路島の3市との意見交換会「地方創生に関する意見交換会(主催:神戸財務事務所)」を開催。今年度は参加した関係機関へのフォローアップを実施。

課題

- 淡路島の地域活性化に取り組んでいくには、これまで以上に島内の連携が必要ではないかといった意見が多く聞かれた
- 地域の重鎮の意見も大事だが、地方創生は、地域の若い人たちが中心となりやっていくことが必要

○島内では、洲本市、南あわじ市、淡路市、(島内3市)ほか、淡路県民局、(財)淡路島くにうみ協会、(社)淡路島観光協会、(社)淡路青年会議所、により組織する淡路島日本遺産委員会を発足させ、「日本遺産」の認定に向けて取り組んだ結果、28年5月に文化庁から認定を受けた。

【企画概要】

○フォローアップ結果や淡路島全体での連携した取組により日本遺産の認定を受けたことから、引き続きこれらの連携した取組を支援するために、講演会・意見交換会を企画。

【ポイント】

- 昨年の意見交換会のフォローアップを踏まえ、テーマを絞った企画設定
 - ・淡路島が「国生みの島」として、28年度に日本遺産の認定を受けたことを契機に、地方公共団体同士の連携強化を目的とした取組を、淡路島日本遺産委員会、淡路信用金庫、当局が共同で企画
 - ・観光にテーマを絞り、淡路島全体の連携を目指した講演会を開催することとし、観光を通じた淡路島の活性化や島内各地域の連携の必要性等の知見・ノウハウを持つ講師を、当局のネットワークを通じて招聘
- 地域の次世代を担う地域の若手が集まったワークショップの開催
 - ・淡路島のことをよく知る地元出身者や企業経営者等を集め、課題解決に向けたきっかけ作り・人脈作りの一助となる市民公開型のワークショップを開催

2. これまでの取組の成果等

【第1部講演会:「島まるごと博物館の発想と地域連携」】

講師: 阪南大学国際観光学部 吉兼秀夫教授
 場所: 洲本市文化体育館
 「図」と「地」の理論をもとに「島まるごと博物館(エコミュージアム)」の考え方について講演。



【第2部ワークショップ】

- ◆ 淡路島内の様々な場所で活躍している方々に講師を交えたワークショップを実施
- ◆ 参加者(12名)については、地元の若手を中心とした企業家等(観光関連団体・企業、地方公共団体、金融機関等)や学生、女性が参画。専門家ではなく、地域の人を集め、地元の生の声を聞く場とし、セミナー参加者にも公開

(ワークショップの主な意見)

- 住民自身が淡路島の良さを認識できていない。
- 淡路島は外から見れば1つ。日本遺産の認定を受けた今、島内が連携し、様々な情報発信していくタイミング。また、日本遺産を通じて淡路島の貴重さを住民に認識してもらいたい。
- 行政ではできない提案や企画をうまくつなぐ(橋渡し)役目を果たす人(行政でも民間でも)が増えてくれば、もっと広がり(繋がり)が大きくなる。

(出席者の声)

- 普段この様な場に参加しない方や日頃繋がりのない方が多数参加しており驚いた。
- 今回のメンバーが今後も繋がっていけるようになれば良い。今後もこのような場を持ちたい。
- 講演会は非常にわかりやすく、ためになった。

3. 今後の神戸財務事務所の対応

- フォローアップの実施など、継続的に地域のニーズを把握し、当局のネットワークを活用した「地域と地域」を繋ぐ取組を行っていく。